

令和6年度 自己評価計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等） |
|----------------------------------|--|--|---|---|---|
| 1 主体的・継続的に学習に取り組む態度を育み、学力の向上を図る。 | ① 授業に臨むときの基本的な姿勢や規律ある学習態度の定着を図る。 | 〔教務課〕 進路指導課 各教科 各学年 若手研修 コーディネーター | 「学習規律（学びの4か条）を守っている」と答えた生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満 | 生徒調査（12月） あてはまる(44.4)+ 少しあてはまる (47.2)=91.6% 達成度：C R5 92.1% | R5年度より若干数値が悪化しているものの、全体として高い基準を保っている。教員と生徒、双方が学びの4か条を意識していく必要がある。次年度以降も取り組みを継続したい。 |
| | ② Chromebook 等を利用して、生徒の実状（習熟度等）や進路希望に応じた学習課題を提示する。 | | 授業外学習時間が 60 分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満 | 生徒調査(12月) 120分以上 R5 12.5% R6 2.8% 60～120分 R5 38.6% R6 26.4% 60分以上合計 達成度：D | 授業外学習時間については、厳しい状態となっている。現在、授業外の学習については、する生徒としない生徒の二極化が進んでおり、学力面でも二極化が見られる状態である。時間だけがすべてではないが、質の高い課題の設定、個に応じた課題の設定という点が本校の課題である。来年度以降も課題として取り組んでいきたい。 |
| | ③ 各種研修や互見授業、授業参観等を通して、教員の授業実践力を高め、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。 | | 「生徒同士の学び合いや発表等の機会を積極的に設けている」と評価する教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満 | 教職員調査（12月） あてはまる(38.9)+ 少しあてはまる (50.0)=88.9% 達成度：B R5 84.2% | 調査結果から、学び合いや発表等を積極的に取り入れている授業が多くなってきたと考えられる。今後も継続していきたい。 |
| | | | 「授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 生徒調査（12月） あてはまる(37.5)+ 少しあてはまる (47.2)=84.7% 達成度：C R5 90.9% | 学力面の二極化という課題があるため、授業のレベルをどこに設定するかという点で難しさがある。習熟度授業の積極的活用などで、個に応じた指導をしていく必要がある。また、個に応じた課題等の設定も大きな課題として、次年度以降も取り組んでいきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・授業外学習時間が少なくなっているが、その時間が増加することが必ずしも生徒や保護者の満足度とは比例しないと思われるので、時間の減少にとらわれず指導していただきたい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・学習時間だけにとらわれず、質の高い学習機会を増やすなど工夫して学習指導を展開していく。さらに、個に応じた課題を設定して意欲の高い生徒にも対応していく。 | | | | |

| 重点目標 | | 具体的取組 | | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等） |
|-----------------------------|-------------------------------------|---|--|----------------|--|--|--|
| 2 | キャリア教育の充実及び個に応じた進路指導の充実により、進路実現を図る。 | ① | 段階的に上級学校や関係機関・地元企業との連携を通して、生徒の進路意識を高めて早期に進路目標を設定することができるよう支援する。 | [進路指導課] 各学年 | 「進路講話、各種講座、企業見学会等が進路選択に役立っている」と答えた生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満 | 生徒調査(12月) あてはまる(34.7)+ 少しあてはまる(48.6)= 83.3% 達成度：C R5 89.8% | 今年度も進路情報企業から講師を招き、進路講話やガイダンスを数多く実施してきた。しかし、昨年度より生徒の意識は低下しているため、今後は講話等の実施前後で実施の目的などをより丁寧に説明するようにする。 |
| | | ② | 進路ガイダンスとカウンセリングを充実させ、生徒個々の状況を把握し、支援する。また、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。 | | 生徒の進路実現率が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満 | 生徒調査(12月) (R6.12.27現在) 92.6% 達成度：C R5 69.0% | 3年生においては、多くの時間をかけ計画的に、学年・グループ・個人でキャリア教育を実施し進路決定を推進してきた。就職試験を受けた14名全員希望の企業に採用内定した。また、進学希望者10名についても全員希望の進学先に合格した。未決定の数名については進路決定に向けた取り組みが遅かったため、今後は3年次で行っていた取り組みを前倒し、2年次より行う予定である。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | <ul style="list-style-type: none"> 進路選択コースごとで多面的に面談を行うことで、生徒の進路実現が図られるようにしていただきたい。 生徒や保護者が満足できる進路決定であれば、進路指導は適切であったと判断できる。 | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現のため、様々な教員が連絡を密にして生徒や保護者の意志を尊重した進路指導を行っていく。 進路が明確に決まらない生徒が増加しないよう、早期の段階から進路目標を設定できるような働きかけを実践していく。 | | | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等） |
|---|---|------------------------|--|---|--|
| 3 自主自律の精神や自他を尊重する心を持った、心身ともに健康な生徒を育成する。 | ① 学校内外の日常生活の場面で、TPOをわきまえた判断と言動ができるように指導を行い、社会の一員としての自覚を促す。 | [生徒課] 生徒会係 生徒指導係 | 「自分から進んで、他の生徒や教職員、来客者等に挨拶をしている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 生徒調査(12月) あてはまる(30.6)+ 少しあてはまる(55.6)=86.2% 達成度：B R5 86.3% | 毎月クラス、部活動、委員会であいさつ運動を実施していたが、挨拶がその時だけのものになっていないか検討していきたい。個別にしっかり挨拶できる生徒は多数おり、今後はあいさつ運動の質を高め、自ら進んで挨拶する雰囲気为学校全体で作ってきたい。ボランティア活動など外部に出ていく活動などが、積極的に挨拶ができるきっかけになるような働きかけをしていきたい。 |
| | ② 基本的な生活習慣確立のために年間4回「生活実態調査」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。 | [生徒課] 厚生係 | 「生活実態調査の結果を指導に活かし、生活改善や問題の未然防止・早期発見につなげている」と評価する教員の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 教職員調査(12月) あてはまる(44.4)+ 少しあてはまる(27.8)=72.2% 達成度：D R5 89.5% | 年4回、生活実態調査を実施した。5月、11月の結果は、基本的な生活習慣の確立、改善に繋がるよう、結果を保護者へ情報提供した。11月の調査結果から朝食の欠食や簡素化が目立つようになったため、その重要性について、保護者懇談で話題に取り上げたり、個別に声かけをしたりするなどして今後も意識が高まるようにしたい。 |
| | ③ 日常的に美化活動や環境衛生に努め、奉仕の心やものを大切にすることを養う。美化コンクールを通じて、他と協力し合うことの意義を確認し、自主性を育む。 | | | 「身のまわりの整理整頓を自主的に実践し、環境整備に努めている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 生徒調査(12月) あてはまる(37.5)+ 少しあてはまる(45.8)=83.3% 達成度：C R5 86.4% |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・小、中学校の頃からの不登校の生徒の入学が増加傾向であるので、生活実態調査等の結果も踏まえ家庭との連携も密にしながら、基本的な生活態度が身につくような指導をしていただきたい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針 | ・生徒の基本的な生活態度が確立できるよう、様々な場面で適切な声かけ等の指導を継続して実施していく。 | | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等） |
|---|---|-------------------------------------|---|---|--|
| 4 地域との連携・協働の取組を充実させ、地域に信頼される学校づくりを推進する。 | ① 地域イベントやボランティア活動等に積極的に参加し、地域貢献意識を高めるとともに、自己の在り方・生き方を深く考える機会とする。 | [生徒課] 生徒会係 各学年 | 「地域に貢献する活動ができた」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満 | 生徒調査（12月） あてはまる(27.8)+ 少しあてはまる(41.7)=69.5% 達成度：D R5 70.5% | 昨年度よりも達成度は減少したが、地域イベントやボランティア活動は積極的に参加している。地域イベントやボランティア活動は、生徒会や地域貢献部を中心に参加しているため生徒全体での達成度は下がっていると考えられる。生徒会や地域貢献部以外の生徒が地域貢献活動に参加していると意識できるように次年度は声掛けをしていきたい。 |
| | ② 地域資源を活用した活動や学習を通して地域理解を深め、探究する力を育成する。 | [教務課] 総務課 進路指導課 各学年 各教科 | 「探究活動や探究学習に積極的に取り組んだ」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満 | 生徒調査（12月） あてはまる(36.1)+ 少しあてはまる(48.6)=84.7% 達成度：B R5 85.2 | 今年度はフィールドワークの日を設定するなど、地域資源を活用した活動や学習に取り組んだつもりだったが、生徒主体での活動とは言えない場面も見られた。機会の設定はもちろん、生徒が主体的に活動できるような取り組みを次年度は目指したい。 |
| | ③ ホームページや広報誌を通じて、本校の教育活動や生徒状況等の情報を発信する。 | [総務課] 各学年 各課 各教科 部顧問 | 「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 保護者調査（12月） あてはまる(62.9)+ 少しあてはまる(37.1)=100% 達成度：A R5 98.7% | 各行事担当の先生方の協力もあり、あてはまる、少しあてはまると答えた保護者が100%となった。今後も、学校行事での生徒の様子や、保護者が知りたいと思う内容をタイムリーに発信していきたい。また、保護者に知らせるべき情報も、迅速に発信していく必要がある。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・フィールドワークなどの活動を通して、生徒自らが積極的に地域資源などに対し課題を見つけ、さらにそれを解決できる力を身につけさせていきたい。 | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・地域資源を活用した活動を増やし、生徒が主体的に課題を見つけ解決する力をつけることができるよう、教員が探究活動の手助けをしていく。 | | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等） |
|--------------------------------|--|---|---|---|---|
| 5 時間管理を意識しながら、組織的で効率的な働き方に努める。 | ① 限られた時間を意識した働き方を行う。若手教員に対するサポート体制を維持する傍ら、若手教員にも責任ある企画や運営に参加させるなど、業務の平準化を図る。 | [各課主任] [学年主任] [若手研修 コーディネーター] | 業務の割り振りや効率化を図ることができた、各課主任・学年主任が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満 | 教職員調査（12月） あてはまる(28.6)+ 少しあてはまる (42.9)=71.5% 達成度：C R5 100% | 各課主任・学年主任を中心として、業務の割り振りや効率化を推し進めてきたが、今年度は大幅に悪化した。管理職も含め様々な業務の見直しや配置をして、業務の平準化を図っていきたい。 |
| | | | 計画的・効率的に業務を遂行することができた教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満 | 教職員調査（12月） あてはまる(50.0)+ 少しあてはまる (38.9)=88.9% 達成度：B R5 100% | 前年度は100%の割合まで改善してきたが、今年度は90%に届かなかった。教員との個別面談などの場面を活用して、計画的・効率的に業務が遂行できなかった部分を検証し、組織的で効率的な働き方に努めていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・生徒数の減少に伴う教員数の減少により、一部の教員に業務が偏らないよう配慮していただきたい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | ・選択コース毎の授業や習熟度授業の実施により教員数はある程度確保されているが、全体としての業務内容の見直しを図り、各課の内容の精選も考慮しながら多忙化の改善を推し進めていく。 | | | |